

記事凡例（増訂版）

(2012/11/27 火曜日 12:00:48 JST) - - 最終更新日 (2012/12/27 木曜日 15:53:09 JST)

凡例 見出しとして取りあげた人名の総数は1294名である。ただし、若干の重複（同一人物が複数の名前で出ている場合）の可能性は否定できない。また、孫文らとの関係が不明の人物も若干含まれている。配列はまず姓の50音、次に名の50音の順とした。姓のみの人物は、その姓の最後に配した。漢字は原則として新字体を用いた。人名見出しは姓名を原則とした。ただし、宮崎滔天など姓号を用いることもある。姓名のよみは、不明の場合は一般的な読みに従い、なお不明の場合は、音読みとした。生没年は、西暦で表記した。生地は、原則として現在の都道府県名で表記した。説明は、孫文との関係を中心に記述した。重要な人物でも孫文との関係が希薄な場合の説明は簡略にした。* = 典拠 ?アジア歴史資料センターのレファレンスコードで検索可能なものは、コード番号を記した。Aは国立公文書館、Bは外務省外交史料館、Cは防衛研究所図書館の資料を示す。検索方法（例：宮崎滔天 B03050067400-7: アジア歴史資料センターのHP(<http://www.jacar.go.jp>)→資料の閲覧→レファレンスコード検索→コード番号(B03050067400)入力→閲覧→ページ番号(7) *個々の人物についてのレファレンスコードはすべてあげていない。?文献資料は、「典拠文献一覧」(pp.126-135)に記載した略号で表記してある。多巻本の場合は、()として巻数を示した。例：宮崎¹(5)は、『宮崎滔天全集』第5巻を示す。*黒竜会編『東亜先覚志士記伝』と東亜同文会編『対支回顧録』については『東亜先覚』、『対支回顧』とのみ記し、巻数の表示はしていない。 = 異称や注釈などを示す。? 人名目次 解説孫文関係在日華僑一覧表 (1913年)